

ロータリー進化論

地球が誕生したのは 46 億年前であり、40 億年前には海ができました。そして、38 億年前に海底のマグマ噴出孔付近で起こった化学反応の中からアミノ酸が合成されて生命の源が誕生したと言われています。最初の単細胞生物が現在の生物の起源とも言われる多細胞生物に進化したのが 10 億年前、さらに最初の脊椎動物の誕生したのが 5 億 5 千万年前のカンブリア紀です。

空气中に酸素がないために、陸上では生物が生存できなかった 5 億年前の古生代前半に魚類が誕生し、硬い鱗をまとった大型の魚類が食物連鎖の頂点にいました。弱い小型の魚は大型の魚から逃れるために浅海から川に移動しました。地上で植物が生長して大気中に酸素が含まれるようになった 3 億 5 千万年前には、魚は両棲類を経て爬虫類に進化して地上の生活を始めました。爬虫類の頂点である恐竜が陸上を支配していたのは 2 億 3 千万年前と言われています。小型の哺乳類は爬虫類から逃れるために穴倉や樹上で生活をし、やがて霊長類に進化します。6 千 5 百万年前に突然恐竜が絶滅しますが、その理由は判りません。その後 5 百万年前に人類の祖先が出現し、20 万年前には旧人、更に 2 万年前には新人が出現し現在に至っています。

このように生命の歴史を振り返れば、一旦強さで食物連鎖の頂点に達しても、大きな環境の変動が来れば適応できない生物は、否応なしに消え去らざるを得ないことが判ります。次の世代に向かって種を保存することができるのは、決して強い生物ではなく、環境の変化を先取りして進化していった生物だけなのです。豊富なミネラルがあったからこそ海で生物が誕生し、空中から酸素を取るために鰓から肺に進化したからこそ陸上の生活が可能となり、色覚を得たからこそ熟れた果実を見分けることが可能になったのです。

現在食物連鎖の頂点にあり、わが世の春を謳歌している人類が、避けることのできない環境の変化や自然の淘汰によって、また自らが招いた危機によって絶滅する危険性は極めて大きいのです。

生物の目的は種を保存すること、すなわち生き抜いていくことです。生き抜いていくために体型を変化させたり、生活様式を変えていかなければなりません。究極の目的に向かって、環境に適応するために、組織構造を変えたり行動を変えたりすることは自然の摂理であることを、この生命の進化から学ばなければなりません。

会員の減少によって、ロータリーに限らずライオンズもキワニスもすべての奉仕団体は存亡の危機に立たされています。その中で次の世代に向かって、その活動を継続していくためにはどうしたらよいかを考えなければなりません。

「世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリー物語は何度も書き替えられなければならないでしょう。」

「ロータリーがその適正な運命を理解するとしたら、ロータリーは必ず進歩しなければなりません」

ん。時には革命が起こる必要があります。」

これは、ポール・ハリスが残した有名な言葉です。この言葉を例に出して、ロータリーは変わらなければならないことを力説する人も多いようですが、ロータリーにおいて、「変えなければならないもの」と「変えてはならないもの」をはっきり分類しておく必要があります。

ロータリーが他の奉仕団体と本質的に違う点は職業奉仕の概念を持っていることです。職業奉仕の理念を捨て去ってボランティア組織に移行することの愚かさを自覚しなければなりません。今からボランティア組織に看板を塗り替えたところで、数ある先発ボランティア組織の影に埋没してしまうことは必至です。すなわち、ロータリー固有の奉仕理念は変えてはならないことを再確認する必要があります。絶対に変えてはならないものは「ロータリーの哲学」すなわち「ロータリーの奉仕理念」です。ロータリーの哲学を変えれば、それはロータリーではなくなってしまうからです。

ロータリーの奉仕理念については次の二つのドキュメントに記載があります。その一つは「決議 23-34」であり、「This philosophy is the philosophy of service - “Service Above Self” - and is based on the practical ethical principle that “He profits most who serves best” この哲学は Service above Self の奉仕の哲学であり、He profits most who serves best という実践倫理に基づくものである。」とService above Self と He profits most who serves best がロータリーの奉仕理念であることが明記されています。

もう一つのドキュメントは、RI から毎年発効される Official Directory RI 会員名簿であり、その最終ページの「A brief history of Rotary」には「Rotary clubs everywhere have one basic ideal - the “Ideal of Service,” which is thoughtfulness of and helpfulness to others. いかなる場所においても、ロータリークラブは一つの基本理念—「奉仕理念」を持っている。それは他人のことを思い遣り、他人のために尽くすことである。」というチェスレー・ペリーの言葉が記載され、Service Above Self の真意が説明されています。

ロータリーの奉仕理念は、奇しくも決議 23-34 に明記されているHe profits most who serves best と Service Above Self の二つのモットーであり、この二つのモットーはどんなことがあっても絶対に変えてはならない奉仕理念であることを強調しておきたいと思います。奉仕理念とはロータリー哲学そのものであり、哲学は万古不易なものであることは、当然なことです。

生物が種を保存することすなわち生き抜くことを唯一の目的にしてきたように、ロータリーもその奉仕理念を達成することを目的にして生存競争に勝ち抜かなければならないのです。

変えてはならないものがある一方で、変えなければならないものに、RI・地区、クラブの管理運営があります。組織の管理運営を長年変更せずに放置しておく、必ず制度疲労を起こします。

これは生物が水中で生活するために魚に進化し、陸上で生活するために両棲類、爬虫類、霊長類を経て人類に進化したように、その組織構造を変えていく必要があるのです。

組織の管理運営は時代の変化に応じて思い切った改革を試みる必要があります。ロータリーの組織を全世界に広げるためには、異文化や地域特性や言語を尊重して、連邦制のような中間管理組織による運営が好ましいと思います。ロータリーは資本主義社会から発生した組織なので、社会主義国の参加は難しいとしても、イスラム圏を忌み嫌う必要はありません。現在のアメリカン・スタンダードではないグローバル・スタンダードに基づいた組織管理に改める必要があります。

更に活動の効率を高めるために、地区組織やクラブ組織の合理的な統廃合や新しい分野の組織創設を絶やしてはなりません。

生物が環境に適応するために、鰓が肺に進化し、鰭が手足に進化し、四足歩行が二足歩行になり、色覚を備えたように、奉仕活動の実践内容は地域社会のニーズの変化に適応したものに変えていく必要があります。ニーズの変化に適応することは環境の変化に適応することを意味するのです。そのためには悪戯に机上の空論を弄ぶのではなく、常に地域社会の人々が必要とするプロジェクトを探して、それが実現するように全力を傾注しなければなりません。

こういった改革をすることなしには、ロータリーという組織が次の世紀に生き残ることができないことを肝に銘じなければなりません。

2008年3月5日